ウォーキングルート開発の基本的考え方

「教養と実業の聖地・松阪」を舞台にした新しいまち歩き

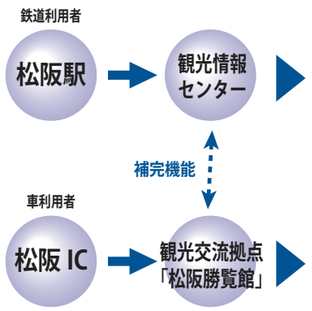
松阪の土地の記憶をたどりながら、「教養と実業の聖地・松阪」のいわれを実感！

蒲生氏郷公が拓いた松坂のまちは、その後、本居宣長をはじめ、三井家・長谷川家といった豪商など、幾多の偉人を輩出しました。先人たちは、今日の日本の「教養と実業」の形成に大きな役割を果たし、その足跡は、今なお、まちの随所にとどめられています。松阪のまちを、先人たちが遺した心に触れることのできるまち歩きの舞台へと変えていきます。

まち歩きルート開発のコンセプト

「松阪の土地の記憶をたどる」

「松阪まち歩き」の基本ルート



扇ルート・縦ルートでカラー舗装化を検討します。

❶扇状の横と縦を結ぶ基本ルート設定

松阪のまちのかたちを表す扇状の横軸と縦軸を結ぶことで、松阪のまちの重層的な文化の広がりを体感いただきます。

❷縦軸をつくる－。通りの奥には楽しさがある

一本脇に入ったヒューマン・スケールの路地には、古建築や食を楽しむことのできる場所がたくさんあります。まち歩きのルートに！

❸四隅・辻辻にはサービスポイントを！

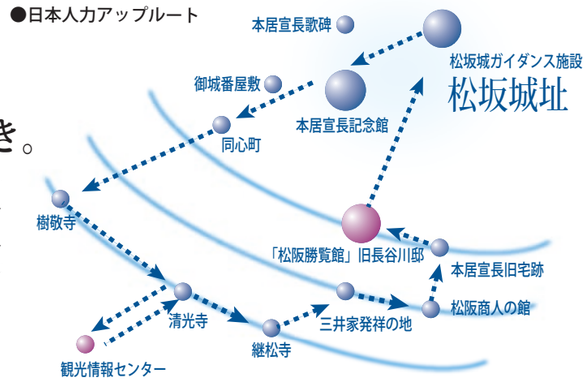
四隅や辻辻に、観光情報を提供し喫茶・休憩のとれるサテライト・ポイントを置き、まちなかの回遊性を高めます。

回遊型まち歩き・テーマ設定（案）

「聖地」にはご利益がある！新たな観光体験の提供！テーマは“日本人力”アップのまち歩き。

先人たちが美しいと感じたものに美しさを感じたい、先人たちの戒めを自らの戒めにしたいと感じることが、文化の継承といえるのではないでしょうか。日本の文化を松阪に代表させて、その継承を通じて、日本人としての自身の魅力を高めることをテーマにすることで、これまでとは違った見方で感じ方でまち歩きを楽しむことができると考えます。

テーマが変わるとまちの見方や感じ方が変わる！



ICT を活用したオリジナルルート

さらに楽しく、好みにあわせてまち歩き。ウォーキングルート・アレンジメントサービスを導入！

※観光交流拠点施設でのサービス提供のほか、インターネットでの活用を可能にします。

まち歩きマップにかかれていることをお客様が読み取る旧来型の情報提供にかわり、お客様の好みから、おすすめしたい場所やルートを提案することができる、アレンジメント型の情報提供サービスを導入します。

タッチパネルで、ウォーキングのアレンジメントサービスを受け、好みにあわせた「マイ・まち歩きルートマップ」を作成提供します。

サイン・誘導サイン等の設置計画の基本的考え方

サイン計画におけるキー・ビジュアルのデザインコンセプト

古の文化と新しい文化との出逢いを予感させるデザインの導入！松阪もめんで表す－まちの“のれん”

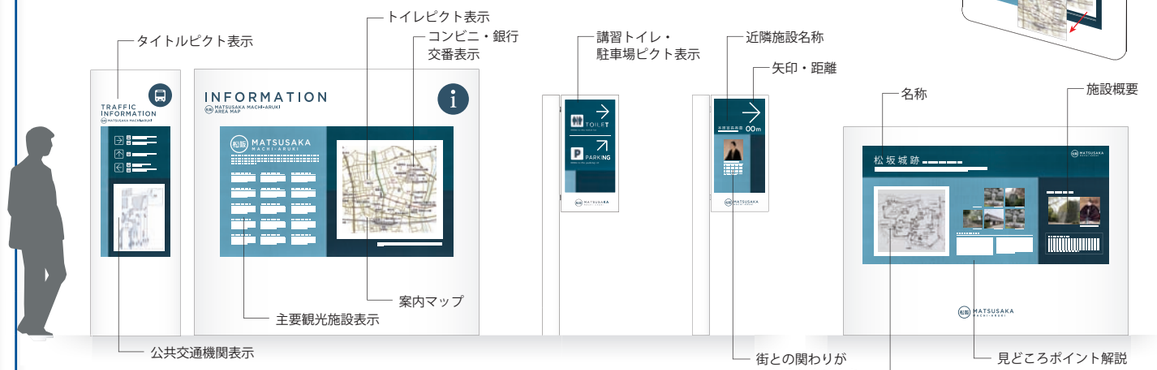
松阪もめんをデザインのモチーフに、松阪文化を代表する「豪商文化」「本居宣長」「食文化」を３つのカラーで色分けして表しています。これらの文化をつなぐという願いを込めてサークル状の記号に松阪のロゴを組みました。全体的に“のれん”を連想させることで、“のれんの向こう側は別世界”という言葉にちなんで、まち歩きの楽しさを誘発するものとしました。古さと新しさを同居させたデザインイメージは、松阪のまちのイメージを表し、さまざまな出逢いを予感させるものとなっています。

サイン・誘導サイン等の展開

サイン計画コンテンツ＆デザインプラン

正しく目的地に誘導しながら、見やすくわかりやすいユニバーサルデザインに配慮されたサイン計画を施します。また、外国のお客様にも対応する４カ国表記を想定します。

※表示面が取り替えられる情報の更新性に優れた設計を行います。



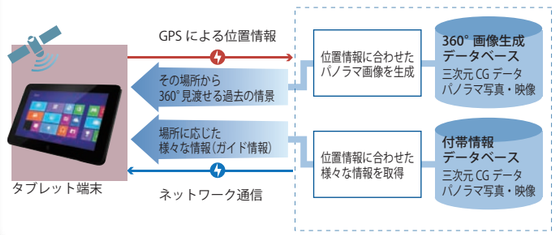
QR コード、NFC の活用

スマートフォン・携帯電話等での利用が可能な QR コードや NFC の活用で詳細情報の提供

まちのイメージアップ・デザイン展開

本居宣長が「松坂勝覧」で、まちの縦横にとおる道に着目したように、道は、まちの姿を表す重要な要素と考えます。今なお、かつての地割が残る松阪のまちで、道のもつ特色を表していくことは、まちのイメージを明瞭に示すうえで効果的と考えます。まちの道ごとに、統一のイメージをメッセージするような、まちのデザイン展開を「まちの“のれん”」を活用して実現します。お客様のまち歩きの楽しさを演出していきます。

まち歩きサポート情報のインターネット配信サービス

松阪の歴史文化資源はもとより、現在のタウン情報までも網羅する総合的なまち情報のデータベースを構築します。データベースの情報は観光交流拠点施設、歴史民俗資料館のほか、市の関連施設においても活用できるようにするほか、インターネットによる配信も行えるようにして、活用の幅を広げていきます。データベース情報は、登録等の簡単な手続きで市民の方々にも入力（情報提供）いただけるものとして、常にまち情報が旬な状態に保たれるようにします。

まち歩きサポート情報の仕組み（概念図）